

地域おこし協力隊

よこお もとき
横尾 幹さん

Profile

2002年本庄市生まれ。2025年3月に東洋大学経営学部経営学科を卒業し、4月1日より地域おこし協力隊に任用された。

新たな挑戦と未来への展望

4

月1日、地域おこし協力隊として新たな一歩を踏み出した横尾さん。林業を振興する仕事に就いた横尾さんは、名前である「幹」という漢字に運命を感じていると語ります。「両親は、樹木の幹のように真っすぐ育ってほしいという願いを込めて名前を付けてくれたんです」と照れくさそうに笑います。

実家は木材を取り扱う会社を経営しており、幼いころから林業は身近な存在でした。しかし、当時は林業に対する興味や関心は全くなく、被災地支援で活動する自衛官に憧れを抱き、「いつか困っている誰かを助けるヒーローになりたい」と思っていたそうです。高校時代は剣道部に所属する傍ら、ボランティア活動にも注力していました。令和元年5月には、学生ボランティアで構成された「NPO法人ほんじょう寺子屋」の立ち上げに携わり、寺子屋体験やてらこや食堂などの企画・運営を行い、子どもたちの教育支援や居場所作りを行っています。「地元から近いこともあり、夏には鬼石地区でキャンプや沢登りのイベントを運

営していました。地域おこし協力隊で藤岡市を選んだのは、こうした活動を通じてこの地域に縁を感じたからです」と話します。

横尾さんが林業に興味を持ち始めたのは、大学在学中での災害支援ボランティアがきっかけでした。「被災地復興のため、ボランティアとして活動しましたが、斜面の崩壊で倒壊した家屋や、河川の塞がれた現状を何度も目の当たりにしました。この経験から森林保全の重要性を痛感し、将来林業に携わる仕事に就くことを決意しました」と当時の心境を振り返ります。

地域おこし協力隊としての活動が始まったばかりの横尾さん。「林業や森林に関心のない人たちに、森の可能性を伝える機会を作りたい。そのためには、今まで培った経験を生かし、若者を対象としたイベントを積極的に企画し、藤岡市で林業に従事する人を増やしたい」と熱い眼差しで今後の展望を語ってくれました。

横尾さんの挑戦は、藤岡市の林業を次の時代につなげていく力強い一歩。今後の活躍に、大きな期待が寄せられています。